

目標達成計画及び自己評価結果を公表します

介護保険のサービスのうち、認知症対応型共同生活介護については、運営基準により、原則として年1回自己評価及び外部評価（第三者評価）を実施することが義務付けられています。

ここでは、評価結果を踏まえた目標達成計画と自己評価結果について公表します。これらは、事業者の責任で作成されたものです。内容については、各事業者にお問い合わせください。

目標達成計画について

- 各事業者は、自己評価及び外部評価（第三者評価）結果を踏まえて、目標達成計画を作成します。
- サービスの質の改善及び向上に向けて、今後、どのように取り組んでいくのかを具体的に記載します。

公表している自己評価の結果について

- 自己評価は、各事業者が、提供するサービスについて自ら評価・点検し、サービス水準向上に向けた自発的な努力に結びつけるものです。
- 自己評価の項目は、第三者評価の共通評価項目と同じです。外部評価（第三者評価）における訪問調査の前に、自己評価を実施します。
- 公表内容は、自己評価で実施が確認できた標準項目数を記載しています。

※ なお、外部評価（第三者評価）の結果は「とうきょう福祉ナビゲーション」の第三者評価のページで公表しています。事業所情報の詳細ページからも、[評価情報詳細](#)のボタンをクリックすれば、第三者評価の結果ページにいくことができます。

サービス種別	認知症対応型共同生活介護
事業者番号	1392000517
事業所名	優っくりグループホーム石神井台沼辺
自己評価実施日	2024年 1月 28日
目標達成計画作成日	2024年 3月 28日

次のページより、目標達成計画及び自己評価結果を掲載しています。

目 標 達 成 計 画

サービス種別	認知症対応型共同生活介護
事業者番号	1392000517
事業所名	優っくりグループホーム石神井台沼辺

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	6-4-4	レクリエーション活動が抑えめになってしまっている。	グループホームのフロア間だけでなく併設している小多機も巻き込んだレク活動。毎月特定の日を決めてレク活動実施。	合同レクの起案書作成。 毎月の予定表に実施するレクの書き込み。	3 か月
2	5-1-3	職員の研修参加をより促す必要がある。新しく計画作成担当者となった職員へ指導が必要。	研修参加率の向上。計画作成担当者として業務を問題なくこなせるようにする。	適切な人員管理と業務内容見直しで研修時間を設ける。研修資料やシステムの周知。ケアマネジャーによる勉強会の実施。	6 か月
3	5-1-4	職員が定着だけでなく意欲的に働くまでの結果は出ていない。	職員から自発的に前向きな意見が多くみられるような環境作り。	職員が何を求めているのかを面談等で把握し可能な限り実現させる。 職員が満足するための事業所環境を整える。	12 か月
4	3-3-1	コロナの影響もあって地域との交流が無くなってしまった。	オレンジカフェの開催や地域イベントへの参加。	認知症オレンジカフェの開催と介護相談窓口の設置。 地域のイベント等に参加。	6 か月
5	4-1-1	ヒヤリハットの報告が少ない。 BCP の再整備が追い付いていない。	ヒヤリハット報告件数の増加とそれによる環境等の整備。 BCP を最新版に修正。	職員ヘリスクマネジメント研修の実施。 ヒヤリハット報告の重要性を周知。 BCP 再整備と各フロアへの掲示。	3 か月

注 1) 項目番号欄には、関連する評価項目の番号(例: 6-4-1)を記入すること。

注 2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること

標準手法用

サービス種別	認知症対応型共同生活介護
事業者番号	1392000517
事業所名	優っくりグループホーム石神井台沼辺

- ※ 自己評価結果は、各評価項目に属する標準項目のうち、実施が確認できた項目数を記載しています。
- ※ 標準項目については、とうきょう福祉ナビゲーションの福祉サービス第三者評価のページに掲載しています。
<http://www.fukunavi.or.jp/fukunavi/hyoka/datafile1.htm>
- ※ 非該当を適用することができる項目は、原則として、3-3-1-2 及び 3-3-2-1 のみです。

カテゴリー 1 リーダーシップと意思決定

サブカテゴリー 1 事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている

評価項目	標準項目の実施状況	
	標準項目数	うち実施項目数
1-1-1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している	2	2
1-1-2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている	2	2
1-1-3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している	3	3

カテゴリー 2 事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行

サブカテゴリー 1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している

評価項目	標準項目の実施状況	
	標準項目数	うち実施項目数
2-1-1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している	6	6

サブカテゴリー 2 実践的な計画策定に取り組んでいる

評価項目	標準項目の実施状況	
	標準項目数	うち実施項目数
2-2-1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している	3	3
2-2-2 着実な計画の実行に取り組んでいる	2	2

カテゴリ 3 経営における社会的責任

サブカテゴリ 1 社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる

評価項目	標準項目の実施状況	
	標準項目数	うち実施項目数
3-1-1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる	2	2

サブカテゴリ 2 利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている

評価項目	標準項目の実施状況	
	標準項目数	うち実施項目数
3-2-1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている	2	2
3-2-2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている	2	2

サブカテゴリ 3 地域の福祉に役立つ取り組みを行っている

評価項目	標準項目の実施状況		
	標準項目数	うち実施項目数	非該当数
3-3-1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる	2	2	
3-3-2 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている	3	3	

カテゴリ 4 リスクマネジメント

サブカテゴリ 1 リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる

評価項目	標準項目の実施状況	
	標準項目数	うち実施項目数
4-1-1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる	5	5

サブカテゴリ 2 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている

評価項目	標準項目の実施状況	
	標準項目数	うち実施項目数
4-2-1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている	4	4

カテゴリ 5 職員と組織の能力向上

サブカテゴリ 1 事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる

評価項目	標準項目の実施状況	
	標準項目数	うち実施項目数
5-1-1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている	2	2
5-1-2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している	2	2
5-1-3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる	4	4
5-1-4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる	4	4

サブカテゴリ 2 組織力の向上に取り組んでいる

評価項目	標準項目の実施状況	
	標準項目数	うち実施項目数
5-2-1 組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる	3	3

カテゴリ 6 サービス提供のプロセス

サブカテゴリ 1 サービス情報の提供

評価項目	標準項目の実施状況	
	標準項目数	うち実施項目数
6-1-1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している	4	4

サブカテゴリ 2 サービスの開始・終了時の対応

評価項目	標準項目の実施状況	
	標準項目数	うち実施項目数
6-2-1 サービスの開始にあたり利用者等に説明し、同意を得ている	3	3
6-2-2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている	4	4

サブカテゴリ 3 個別状況に応じた計画策定・記録

評価項目	標準項目の実施状況	
	標準項目数	うち実施項目数
6-3-1 定められた手順に従ってアセスメントを行い、利用者の課題を個別のサービス場面ごとに明示している	3	3
6-3-2 利用者等の希望と関係者の意見を取り入れた個別の介護計画を作成している	3	2
6-3-3 利用者に関する記録が行われ、管理体制を確立している	2	2

様式 1 認知症対応型共同生活介護・標準の手法

6-3-4	利用者の状況等に関する情報を職員間で共有化している	2	2
-------	---------------------------	---	---

サブカテゴリ-4 サービスの実施

評価項目		標準項目の実施状況	
		標準項目数	うち実施項目数
6-4-1	認知症対応型共同生活介護計画に基づいて自立生活が営めるよう支援を行っている	3	3
6-4-2	利用者の状態に応じて、日常生活に必要なさまざまな作業等を利用者が主体的に行うことができるよう支援を行っている	4	4
6-4-3	利用者の健康を維持するための支援を行っている	4	4
6-4-4	共同生活が楽しく快適になるよう工夫している	3	3
6-4-5	事業所と家族等との交流・連携を図っている	4	4
6-4-6	利用者が地域で暮らし続けるため、地域と連携して支援を行っている	5	5

サブカテゴリ-5 プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重

評価項目		標準項目の実施状況	
		標準項目数	うち実施項目数
6-5-1	利用者のプライバシー保護を徹底している	3	3
6-5-2	サービスの実施にあたり、利用者の権利を守り、個人の意思を尊重している	2	2

サブカテゴリ-6 事業所業務の標準化

評価項目		標準項目の実施状況	
		標準項目数	うち実施項目数
6-6-1	手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている	3	3
6-6-2	サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている	2	2

カテゴリ7 事業所の重要課題に対する組織的な活動

サブカテゴリ1 事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている

評価項目 1

・事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている（その1）

【課題・目標】

事業所の理念・基本方針の実現を図るための重要課題（事業計画に掲げた事項等）、そしてその課題に対して前年度に設定した目標を記載します。（重要課題の中で、前年度中に達成すべきとしていた短期的な目標を記載する。）

職員の育成・サービスの質向上

○上記の課題を抽出した理由・背景

サービスの質向上のため職員の認知症への理解や介護に関わる法令等周辺の変化について学んでいく必要を感じたため。職員から自分のスキルへの不安の声があったため。

【取り組み】

上記の目標を達成するために、前年度に行った具体的な取り組み（体制・期間・内容等）を記載します。

事業部で開催される研修参加の奨励。外部研修も同様。

研修資料を見直しやすいよう整理を行う。

採用時研修の内容を充実させる。

業務フローの改訂等各種帳票類の修正。

【取り組みの結果】

前年度末までの取り組みの状況や目標達成の度合いを具体的に記載します。

Zoomを活用し人員も増やしたことで業務に余裕ができ以前よりは職員の研修参加を実現しやすくなった。採用時の研修では時間はかかるものの認知症に関する研修や働くにあたっての決まり事を充実させることができた。

業務内容や手順を見直すことで効率化を図り利用者様と接する時間をより設けることができています。

【振り返り(検証)・今後の方向性】

【取り組みの結果】について検証した内容と、どのように今年度の目標設定や取り組みに反映したかを記載します。

研修参加率の向上は果たすことができたものの、内容によって職員からのニーズとは外れてしまうこともあった。新たな研修システムの導入と周知によってより研修環境の充実を図る。

採用時研修は更に使用する資料等の修正を行い内容の充実を図っている。

業務内容について断捨離を予定しておりフロア環境の大幅な変化やコロナ5類移行もあって更に修正を行う。

様式 1 認知症対応型共同生活介護・標準の手法

評価項目 2

・事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている（その2）

【課題・目標】

事業所の理念・基本方針の実現を図るための重要課題（事業計画に掲げた事項等）、そしてその課題に対して前年度に設定した目標を記載します。（重要課題の中で、前年度中に達成すべきとしていた短期的な目標を記載する。）

コロナ対策を踏まえつつコロナ禍前のようなサービス提供を目指す。

○上記の課題を抽出した理由・背景

新型コロナウイルスにより活動の制限が求められてきたが、活動量の低下によるADL低下や満足度の低下へと繋がってしまったため。

【取り組み】

上記の目標を達成するために、前年度に行った具体的な取り組み（体制・期間・内容等）を記載します。

面会制限の緩和やビデオ通話アプリを活用。

Zoomを活用したボランティアの受入。

事業部間でZoomにて合同レクリエーション活動の実施。

【取り組みの結果】

前年度末までの取り組みの状況や目標達成の度合いを具体的に記載します。

取り組みに関して実現はしたもののボランティアの受入やレク開催の頻度は非常に少なくなっていました。通話アプリによる面会は一部のご家族様が積極的に活用されている。

【振り返り(検証)・今後の方向性】

【取り組みの結果】について検証した内容と、どのように今年度の目標設定や取り組みに反映したかを記載します。

5類への移行もあって更に各種制限の緩和を行うことができたものの未だコロナ禍前の生活とは異なる部分もあるためより地域交流やZoom以外でのボランティア受入を活発化させることやコロナ対応の中で行われなくなってしまった調理活動の再開等を計画に盛り込んだ。